鳥取県健康対策協議会肝臓がん対策専門委員会

■ 日　時　　令和８年３月５日(木)　午後２時45分～午後４時10分

■ 場　所　　テレビ会議　鳥取県健康会館　鳥取市戎町
鳥取県中部医師会館　倉吉市旭田町
鳥取県西部医師会館　米子市久米町

■ 出席者　　20人
〈鳥取県健康会館〉
清水健対協会長、岡田・瀬川・谷口・松木・満田各委員
県健康政策課がん・生活習慣病対策室：川本室長、松原・東原両係長
健対協事務局：岡本事務局長、田中尚・田中貴両係長、岩垣主任、廣瀬主事
〈鳥取県中部医師会館〉福羅委員
〈鳥取県西部医師会館〉孝田委員長、岡野・陶山・永原・前田各委員

【概要】

・令和６年度肝炎ウイルス検査受検率は前年度と同じく1.9％であった。検査の結果、HBs抗原陽性率0.9％（前年度1.2％）、HCV抗体陽性率0.1％（前年度0.2％）であった。
　精検受診率は46.2％で、昨年度に比べ16.8ポイント減少した。精検受診率の地区別では、東部57.1％、中部44.4％、西部43.5％であった。精検の結果、肝臓がんだった者は１人であった。

・肝臓がん検診及び定期検査による発見がん患者追跡調査結果について、肝炎ウイルス検査による発見がんが１人、定期検査による発見がんまたはがん疑いは、B型肝炎ウイルス陽性者から肝臓がんが２人、C型肝炎ウイルス陽性者から肝臓がんが５人である。

・2025年にBMJにおいて報告されたCOREスコアは、年齢・性別・AST・ALT・GGTの５項目のみでMALO（主要な肝有害転帰）リスクを予測でき、血小板が不要で健診データだけで算出できる点が大きな利点である。

・令和８年度肝臓がん検診従事者講習会及び症例研究会は、７月12日(日)西部地区で開催予定の鳥取県医学会と同時開催することとなった。

挨拶（要旨）

〈清水会長〉
肝臓がんを含む主要ながんへの対策は、地域の健康寿命延伸に向けた重要な柱である。この会議が、今後の施策の更なる充実に資するものとなるよう、限られた時間ではあるが、忌憚のない意見をお願いする。

〈孝田委員長〉
今年度の委員会は冬のみの開催となり、本日は議題が多くなっているので、早速始めさせていただく。

報告事項

1．令和６年度肝炎ウイルス検査事業実績及び令和７年度事業実績見込及び令和８年度事業実施計画について：

東原県健康政策課がん・生活習慣病対策室係長

（１）令和６年度肝炎ウイルス検査の結果について

令和６年度は19市町村で実施し、対象者数206,594人（前年度205,618人）のうち、受診者数は3,940人、受検率は前年度と同じく1.9％であった。

検査の結果、HBs抗原陽性者は36人で陽性率0.9％（前年度1.2％）、HCV抗体陽性者は３人で陽性率0.1％（前年度0.2％）であった。

精検受診者は18人であり、精検受診率は46.2％で、前年度に比べ16.8ポイント減少した。精検未受診者がある市町村に確認したところ、要精密検査者の中にはすでに医療機関で治療・フォロー中の者で精検不要と思われる者が一定数含まれていることが判明し、実質的な精検受診率を表していない可能性がある。精検の結果、肝臓がんは１人であった。

精検受診率の地区別では、東部57.1％、中部44.4％、西部43.5％であった。各市町村では精検未受診者に対して受診勧奨を文書、電話、家庭訪問等で行い、未受診の理由について把握に努めている市町村もある。

委員より、精検未受診者が医療機関フォロー中と回答した場合には、エコー検査等を実施されているか確認し、実施していない場合は適切なフォローが受けられていないため、精密検査を受ける必要があること、次回報告ではこれまで通りの精検受診率と併せて、医療機関でエコー検査等のフォローを受けている場合は精検不要者の扱いとし、実質的な精検受診率を示して欲しい、との意見があった。

（２）肝臓がん検診により発見された肝炎ウイルス陽性者に対しての定期検査結果について（県事業の肝臓がん対策事業）

平成７年度から実施している、過去に検査で発見された肝炎ウイルス陽性者に対する定期検査の結果は以下のとおりである。

HBs抗原陽性率は若年層59歳以下が高い傾向にあり、HCV抗体陽性率は、65歳以上の高年齢者が高い傾向である。

令和６年度に実施した妊婦健康診査における肝炎ウイルス検査受診状況は、妊婦健康診査受診者数は2,998人で、検査の結果、HBs抗原陽性者は３人、HCV抗体陽性者は２人、HBs抗原HCV抗体とも陽性は１人であった。精検受診者は３人であり、精検受診率は50.0％で、精検の結果、１人は無症候性キャリア、１人はその他の疾病、１人は正常であった。精検未受診者３人のうち１人は医療機関でフォロー中で、残る２人はキャリアであることは確認されたが、現在のフォロー状況は不明である。市町村によって、母子保健担当者と肝臓がん対策担当者の連携が不十分であるため連携強化が求められた。

（３）令和７年度実施見込み及び令和８年度実施計画について

令和７年度の受診予定数は国庫事業の肝炎ウイルス検査は3,875人、市町村単独事業は909人の見込みである。

令和８年度実施計画は国庫事業の肝炎ウイルス

区　　分	健康指導対象者（人）	定期検査受診者数（人）	定期検査受診率	定期検査結果（人・％）		
				慢性肝炎	肝硬変	がん
B型肝炎ウイルス陽性者	1,915	888	46.4	159 (17.9)	9 (1.0)	5 (0.6)
C型肝炎ウイルス陽性者	562	242	43.1	23 (9.5)	3 (1.2)	6 (2.5)

※肝臓がん11人（確定診断後の経過観察含む）

検査は3,930人、市町村単独事業は914人を計画している。

２．令和６年度肝臓がん検診発見がん患者追跡調査結果について：孝田委員長

（１）令和６年度肝炎ウイルス検査から発見された肝臓がんは１人であった。また、肝臓がん検診により発見されたウイルス陽性者に対しての定期検査の結果、B型肝炎ウイルス陽性者から肝臓がんが２人、C型肝炎ウイルス陽性者から肝臓がんが５人であった。

（２）平成10年度～令和５年度肝炎ウイルス陽性者定期検査による発見がん追跡調査報告では、生存率について提示はされなかったが、傾向に変化はなかった。ラジオ波焼灼療法が減少し、化学療法等の治療が増加しており、化学療法の効果があった方は長期の生存が確認されている。平成７年度～令和５年度肝臓がん検診発見がん追跡予後調査報告では、発見が遅いため生存率も低く現在の生存は２人であった。

３．新たなマーカーを用いた非ウイルス性肝疾患の拾い上げについて：孝田委員長

非ウイルス性肝疾患の拾い上げについて、これまでは特定健診や高齢者健診の結果を基にFIB-4インデックスを算出し、高リスク者に定期検査を勧めてきた。しかし、定期検査受診率が低く、県からの検査費用助成があったが利用者が少ないため助成事業は本年度で終了することとなった。また、FIB-4インデックスの算出には血小板値の収集などの負担も大きかった。

2025年にBMJにおいて報告されたCOREスコアは、年齢・性別・AST・ALT・GGTの５項目のみでMALO（主要な肝有害転帰）リスクを予測でき、血小板が不要で健診データだけで算出できる点が大きな利点である。３か国95万人規模の検証で予測精度はCOREAUC 0.88と高く、FIB-4を上回る結果が示されている。日野病院の人間ドック受診者607人のうち解析対象者591人で比較したところ、COREが最も高い精度を示し、特に高齢者でFIB-4の精度が低下する一方、COREは実際の肝疾患リスクをより反映している可能性が示唆された。CORE高リスク群は肥満や脂肪肝が多く、MASLDの拾い上げにも有用と考えられる。

今後の案として、健診受診者全員のCOREスコアを算出し、2.0以上を高リスクとして消化器内科受診につなげ、0.5～2.0の中リスク群は肥満・糖尿病の有無に応じてFIB-4やエラストグラフィーを測定し、0.5未満は異状なしとする方法を検討している。令和８年度は日野町の特定健診受診者全員でCOREスコアを算出し、リスク分布を検証する予定である。ただし、COREの計算式が複雑で専用サイトへ１件ずつデータ入力が必要なため、入力作業の負担が課題である。今後、得られたデータを基に改めて報告する予定である。

４．その他

（１）令和８年度の肝炎・肝がん対策関連事業概要について：

東原県健康政策課がん・生活習慣病対策室係長

令和８年度は、令和７年度の肝炎・肝がん関連事業を継続実施する。一部、非ウイルス性肝疾患に対する高リスク者の定期検査費用助成については、利用者が少なく定期検査受診行動の促進につながらなかったことから、３年間のモデル事業としての評価を踏まえ、令和７年度で終了する。なお、定期検査の受診勧奨については、今後も市町村において継続して取り組む予定である。

（２）75歳未満がん年齢調整死亡率について：

松原県健康政策課がん・生活習慣病対策室課長補佐

国立がん研究センターが令和６年の75歳未満がん年齢調整死亡率を公表した。

鳥取県の男女計の死亡率は、男女計65.5（全国28位）で、昨年の62.9（全国17位）より増加し、県第４次がん対策推進計画（R6～R11）の目標値（61.0）を超過した。男性83.7（全国34位）、女性47.5（全国６位）であった。また、肝臓がんの男女計の死亡率は4.1（全国42位）、男性7.5（全国47位）、女性0.9（全国７位）であった。

また、平成28年から開始された「全国がん登

録」のデータを活用した平成28年～30年の５年純生存率が公表され、主な部位の鳥取県男女計の５年純生存率は、乳房が89.3％と最も高く、続いて子宮70.5％、大腸69.2％、胃68.8％、肺42.4％で、最も低かったのは肝臓の42.2％であった。
（※純生存率：対象とするがん患者と同じ性、年齢、カレンダー年、診断時住所（都道府県）の一般集団の期待死亡率で、当該がん患者の死亡確率を調整したもの）

（３）県の来年度当初予算について：

松原県健康政策課がん・生活習慣病対策室課長補佐

がん対策推進事業の令和８年度予算案について報告があった。これまで医療費等支援事業のウィッグや補正下着等の購入費用の助成対象者はがん患者だけであったが、脱毛症患者も対象とするため、昨年度予算より240万円程度予算規模を拡大し計上している。

また、東原県健康政策課がん・生活習慣病対策室係長より、肝炎対策協議会の報告があった。肝炎対策協議会では、眼科や整形外科などで術前検査として肝炎ウイルス検査が行われているにもかかわらず、陽性者が適切に専門医へつながらず、フォローが十分に行われていないという全国的な課題を踏まえ、鳥取県の現状を把握し、今後の取り組みについて検討するため、県内すべての医療機関および歯科診療所を対象にアンケート調査を実施した。

アンケート結果では、肝炎ウイルス検査の結果が患者に適切に返されていない医療機関があること、医師ごとに対応が任され標準化されていないこと、陽性者への説明や専門医への紹介が行われていない事例が多数存在することが明らかとなった。

今後は、アンケート結果を医療機関へフィードバックするとともに、専門医へ紹介しやすくするための簡易版紹介状やフォーマットの作成を検討していく方針である。

協議事項

１．令和８年度肝臓がん検診従事者講習会及び症例研究会について

岡田委員より、令和８年度肝臓がん検診従事者講習会及び症例研究会について、７月12日（日）西部地区で開催予定の鳥取県医学会と同時開催の提案があった。協議の結果、了承され、講師については、孝田委員長を中心に決めていただく。

肝臓がん検診従事者講習会及び症例研究会

日　時　令和７年７月20日（日）
午前11時55分～午後１時05分

場　所　鳥取県健康会館（鳥取県医師会館）
鳥取市戎町

出席者　100名（医師：100名）

講　演

鳥取県健康対策協議会肝臓がん対策専門委員会委員長　孝田雅彦先生の座長により、おおやま内科クリニック院長　大山賢治先生による「もしかして肝臓がんを見逃していませんか」の講演があった。

症例検討

鳥取県健康対策協議会肝臓がん対策専門委員会委員長　孝田雅彦先生の進行により、鳥取県立中央病院消化器内科部長　岡本敏明先生から症例報告をしていただき、検討を行った。